

施策マネジメントシート ～平成29年度の振り返りから30年度の取組へ～

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(5月中に記入)

長期振興計画 の位置づけ	まちづくり分野	くらし分野	担当課				企画課	
	政策分野	社会基盤・環境	課長名				神村弘二	
	施策	2 公共交通の充実		重点施策 の該当	H29	—	H30	—
施策の目的	対象	市民・来訪者・運行业者		意図	移動手段が確保され、便利に利用できる			

施策の目標指標

目標指標(単位)	長振策定時	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値)					最終目標値
	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標値	2019年度目標値	2020年度目標値	2021年度目標値	
地域公共交通の市民満足度(%)(どんがタクシー・わかさ姫の満足度平均)	28.1	30.6 (29.0)	30.5	32.0	33.5	35.0	
航路の市民満足度(%)(フェリー・高速船満足度平均)	45.7	53.4 (46.5)	48.0	49.0	50.0	51.0	
航空路の市民満足度(%)	25.3	30.5 (26.0)	27.0	28.0	29.0	30.0	

市民アンケート調査の結果(施策に関する重要度と満足度)

平成29年度実績		平成30年度実績		2019年度実績		2020年度実績		2021年度実績	
重要度(%)	満足度(%)								
75.6	29.1								
重要度DI	満足度DI								
66.4	-6.1								

施策推進のための取組の成果を測る指標

基本事業名	関連戦略No.	成果指標(単位)	長振策定時	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値)					最終目標値
			28年度実績	29年度実績	30年度目標値	2019年度目標値	2020年度目標値	2021年度目標値	
地域公共交通の利便性の向上		デマンド型乗合タクシー(どんがタクシー)利用者数(人)	26,985	24,180 (27,255)	25,147 (27,527)	26,153 (27,803)	27,199 (28,081)	28,362	
地域公共交通の利便性の向上		市街地巡回バス(わかさ姫)利用者数(人)	11,314	11,120 (11,427)	11,541	11,657	11,773	11,890	
航路・航空路の利便性の向上		高速船利用者数(離島カード・島発往復者)(人)(鹿-西)	58,223	86,616 (75,000)	87,000 (75,000)	87,000 (76,000)	87,000 (76,000)	87,000 (77,000)	
航路・航空路の利便性の向上		フェリー利用者数(離島カード・島発往復者)(人)(鹿-西)	-	839 (960)	980	1,000	1,100	1,200	
航路・航空路の利便性の向上		種子島空港利用者数(定期路線・チャーター便・臨時便含む)(人)	75,938	83,936 (76,000)	85,365 (77,000)	86,891 (78,000)	88,481 (78,500)	90,000 (79,000)	

②-1 振り返り(Check)

施策を取り巻く環境変化・市民ニーズ等への対応	
大きな環境の変化としては、平成29年4月から「有人国境特措法」の施行に伴い、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金の運賃低廉化事業がスタートし、フェリー・高速船の航路及び航空路において、これまでより2割～3割程度低廉な運賃で利用できるようになった。この制度に対応すべく、3月初から4月初めにかけて、割引を受けるために必要な「離島カード」について、市民への周知活動を行うとともに、平日の時間外や土・日窓口開放で発行作業を行い、70%を超える発行を行った。また、路線バスについては、利用者の伸び悩みから、運行业者の経営が逼迫していることを受け、利用者のサービスを維持することを目的に、運営支援を広域的に開始した。	
施策の成果(貢献度の高い事業等)と現状・課題	
成果	成果の大きかったものとしては、有人国境離島特措法関連交付金の活用について、年度の最終としては80%を超えるカード発行率となり、島民の高速船の利用についても49%の伸び、航空路も定期便で8%伸びている。また、航空路については、チャーター便の便数が大幅に増えたことにより、約1.5倍で過去最高となっている。巡回バスやデマンドタクシーについては、引き続き交通弱者を中心とした公共交通の役割を果たしてきている。
現状・課題	路線バスについては、現状では民間での運営を支えるためには行政の支援が不可欠であり、人口減に伴い今後とも益々拡大していくことも懸念されている。広域的な取り組みが前提となるが、空港バスも含めて、島内公共交通のあり方について、検討していく時期が来ている。一方市内の公共交通である巡回バスやデマンドタクシーについても、様々な要望も出されており、細かな改善は随時行っている。
今後の方向性	今後の方向性の根拠等(他施策との連携、総合戦略との関連、環境変化等を踏まえ記入)
継続・現状維持	路線バスについては、住民や観光客の利用の実態と今後の利用の広がりの可能性も調査しながら、広域的な公共運営も視野に、路線の見直しや機材の導入、経費の見積もり等を行いながら、現状との比較の上で、新たな運営組織の立ち上げなど検討していく必要がある。市内公共交通については、高齢者の免許返納とも連携して特典なども含めて再度市民への周知を図り、利用者の拡大を図っていく。

施策マネジメントシート ～平成29年度の振り返りから30年度の取組へ～

②-2 政策部会による振り返り(Check)

(6月中に記入)

今後の方向性	政策部会で行われた施策に対する意見等(将来像の実現に向けた課題や優先度、市民との協働のあり方など)
継続・現 状維持	【総務企画部会意見】 ○デマンド型乗合タクシーの利用者数の減少を防ぐ方策として、新規利用者を獲得するため利用方法を周知する必要がある。 ○運転免許証返納する際に、デマンド型乗合タクシーの利用方法を周知することで利用者を獲得できないか。 ○高速船の始発の便に間に合うように運行ができないか。